

# 1. 旅費業務のあるべき姿の検討

現状分析の結果から得られた課題・困りごとをもとに旅費業務のあるべき姿を提案します。

## 現状の課題・困りごと

- 自動計算不可による計算依頼の手間
- 小中学校分の旅費の教育事務所での入力代行の手間
- 紙帳票での決裁、保管、廃棄の手間
- 入力画面のわかりづらさ、難しさによる作業効率の低下
- 専用端末、システム稼働時間による作業制限

## 検討のポイント

- 全国的な標準化、業務の最適化
- 業務継続性の確保、働き方改革への対応
- 職員の利便性の向上及び運用コストの最小化

## あるべき姿

- (1) 任意の起点入力と距離設定を可能とし計算依頼を削減
- (2) 精算払いの原則化
- (3) 小中学校からの旅費システム利用
- (4) 旅行命令票、支出票のペーパーレス
- (5) 電子決裁、文書管理の実現
- (6) 初心者にもわかる画面構成、UIにする
- (7) 財務会計システムとの切り離し、疎結合化
- (8) 一人一台端末での業務実施、テレワーク・リモートワークへの対応
- (9) 稼働時間（入力可能時間）の拡大

## 2. あるべき姿 (1/9)

### (1) 任意の起点入力と距離設定を可能とし計算依頼を削減

起点コード入力及び郵便路程による距離設定を改め、操作者が任意の起点入力と距離設定を行うようにする

#### 現状の旅行行程登録

- ・出発・目的地点の選択を独自の起点コードから選択
- ・昔の郵便路線図をもとにした独自の陸路距離設定
- 主要地点しか網羅されていない、現課で登録不可のため出納機関で計算依頼登録の手間がかかる
- 独自のコードや路程図の維持、修正、管理に手間がかかる

#### あるべき姿

- ・操作者が任意の起点入力と距離設定を可能であること
- ・経路はシステムが経済的な順に候補を絞って提示し、操作者が選択可能であること
- (例) 所要時間が少ない又は安価な順に5件候補を表示

#### 全国的な標準化

計算依頼の手間を軽減しつつ選択経路の公正さを担保

## 2. あるべき姿 (2/9)

### (2) 精算払いの原則化

旅費の手続きを旅行計画（事前）と旅費精算（事後）とし、支払いは精算払いを原則とする。また、理由がある場合には概算払いも許可する。

#### 現状の手続きの流れ



旅行試算書作成

旅行命令・旅費請求登録～審査

旅行の実施

旅行命令変更・追給（又は返納）登録～審査 ※変更ある場合

支払い

支払い又は返納

#### あるべき姿の手続きの流れ



旅行計画（旅行命令登録&予定額算出～決裁）

旅行の実施

旅費精算（旅費請求登録～審査）

支払い

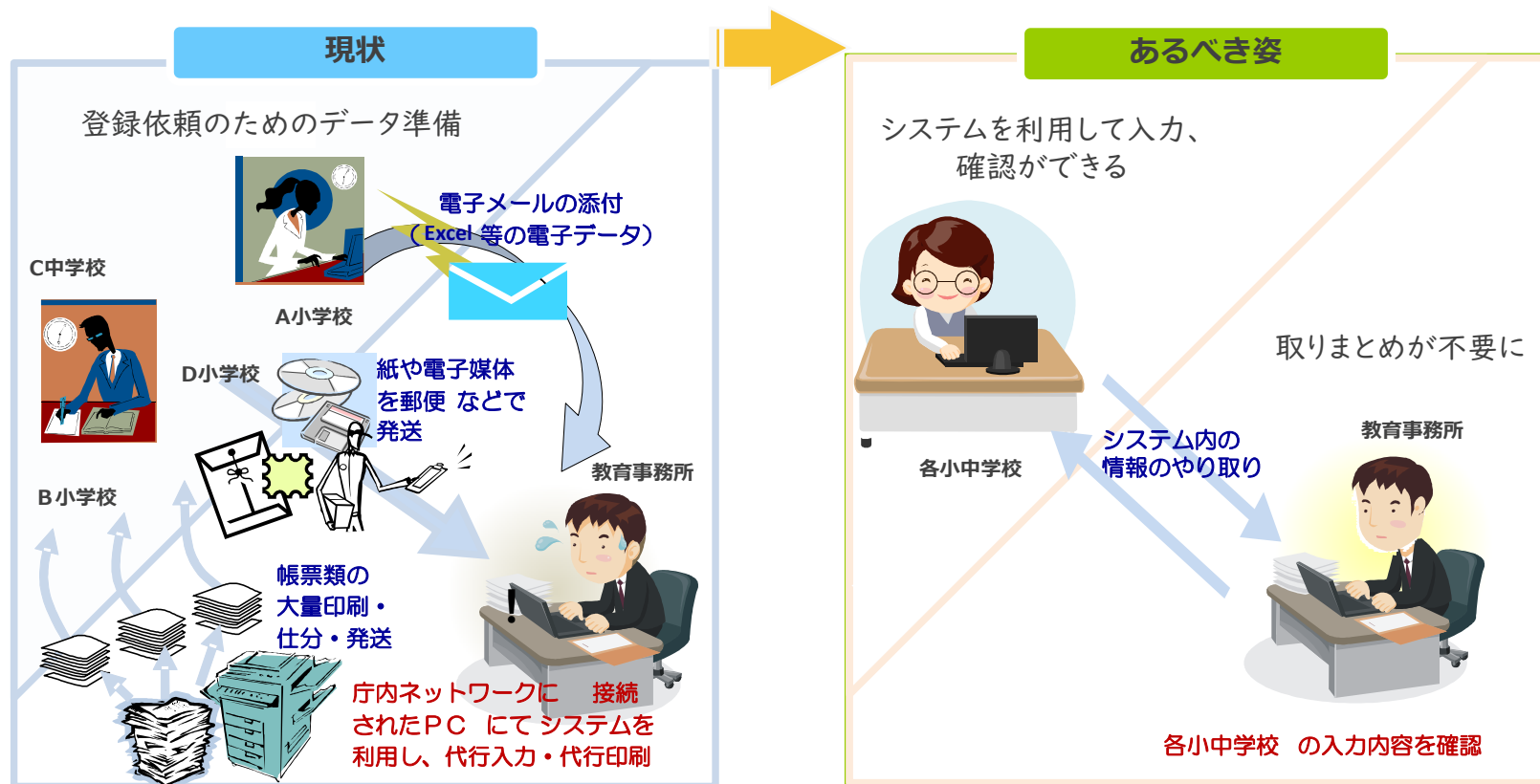
全国的な標準化

追給・返納に係る手続きの手間を軽減

## 2. あるべき姿 (3/9)

### (3) 小中学校からの旅費システム利用

小中学校から旅費業務の登録を行い、小中学校分の旅費の教育事務所での入力代行や取りまとめの手間をなくし事務を効率化する。



職員の利便性の向上

## 2. あるべき姿 (4/9)

### (4) 旅行命令票、支出票のペーパーレス化

#### 現状

・書類の保管・廃棄の手間がかかる

#### あるべき姿

・帳票をPDF等の電子データでの出力、文書管理とする

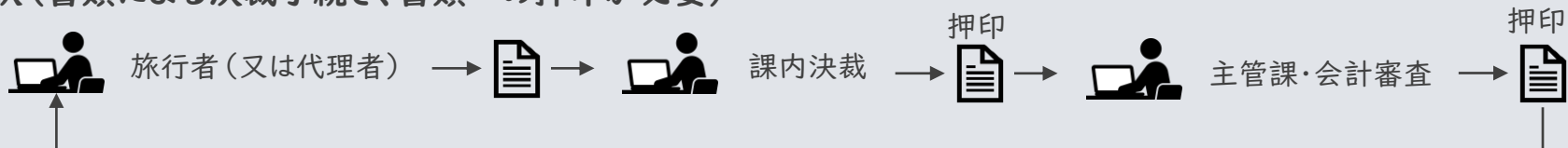
執務環境改善、働き方改革への対応

## 2. あるべき姿 (5/9)

### (5) 電子決裁、文書管理の実現

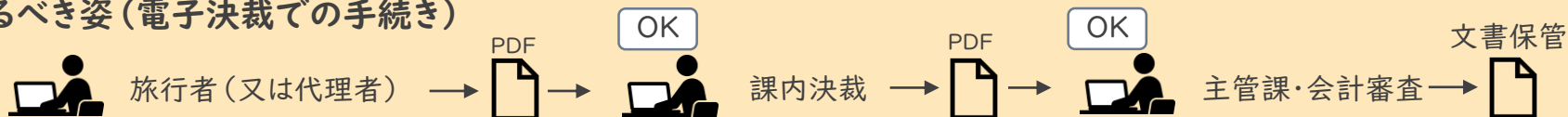
電子的な旅行命令、旅費請求の申請、承認を実現し、書類による決裁を不要とする。

#### 現状（書類による決裁手続き、書類への押印が必要）



書類の授受・郵送による作業や所在不明確認などの手間

#### あるべき姿（電子決裁での手続き）



電子決裁による作業の迅速化、ペーパーレスの促進

業務継続性の確保、働き方改革への対応

## 2. あるべき姿 (6/9)

### (6) 初心者にもわかる画面構成、UIにする

#### 現状

- ・入力箇所やボタンが多く、サブ画面が複数あるため登録方法がわかりづらい
- 操作に慣れた人しか使えない
- 入力に時間を要し、作業効率が低下する

#### あるべき姿

- ・初心者でも容易に登録が行えること
- ・直感的に操作ができるように画面構成やインターフェースの工夫がされていること
- ・登録方法のチュートリアルやケースに応じた入力の見本やテンプレートが準備されていること
- ・操作マニュアルの利便性や可読性が高いこと
- ・入力補助機能が充実していること

#### 職員の利便性の向上

## 2. あるべき姿 (7/9)

### (7) 財務会計システムとの切り離し、疎結合化

#### 現状

- ・財務会計システム（出納局所管）上でシステム起動・画面操作
  - ・財務会計システムの各事務と旅費システムの機能が密に結合している
- 業務個別の保守や運用、機能拡張に対応しづらい

#### あるべき姿

- パッケージシステム利用を考慮し、財務会計システムと切り離したシステムとする
- ・システム機能を全国的な標準化に合わせて再構成し、制度改正などへの柔軟な対応が出来ること
- ・システムのパッケージシステム化等により、機能拡張の際のコスト軽減が図られていること
- ・財務会計の予算事務や支出事務との連携が維持できるよう考慮されていること

全国的な標準化

永続的な機能拡張

運用コストの削減



## 2. あるべき姿 (8/9)

### (8) 専用端末や操作カードの廃止

#### 現状

- ・専用端末を使用してのシステム操作
- 組織内の限られた端末台数の取り合い、順番待ちによる時間ロスは発生
- 出張中や在宅勤務時にシステム登録ができない

#### あるべき姿

- ・専用端末を廃止し、一人一台端末で業務遂行できること
- ・テレワーク・リモートワーク中の業務遂行ができること
- ・操作カードに換わるユーザー認証や操作権限管理を実現し、認証や権限管理が効率化されること

業務継続性の確保、働き方改革への対応

## 2. あるべき姿 (9/9)

### (9) 稼働時間 (入力可能時間) の拡大

#### 現状

- ・システム稼働時間 (入力可能時間) の制約 ※開庁日の8:30~17:15
- 作業時間が制限される

#### あるべき姿

- ・システム稼働時間 (入力可能時間) を拡大し、フレックスタイム制度など様々な勤務形態への対応ができること

業務継続性の確保、働き方改革への対応